



松木源太郎 議員



地方独立行政法人・総合病院国保旭中央病院の在り方について

問 千葉社保協のコロナ対策の質問に市は「市立病院がないので、コロナ対策は行っていない」と回答していた。また、決算では、旭中央病院へ病床確保のため1億円の援助をしたとの報告があったが、内容は病院のホームページを見るようにとのことだった。市長はどう考えているか。

答 旭中央病院は市立病院であり、市が評価委員を置き、理事長、幹事を任命しているほか、市が定める中期目標を達成するため、病院が策定する中期計画は議決案件となる。

防災行政無線の改修事業について

問 防災行政無線が「聞こえない」と苦情を伝えながしのつづてであるとの声は事実か。

答 庁舎移転後、受信不良が増えている。8月末で31件が解消できていない。

市道A-1099号線の施工方法及び管理の在り方について

問 田んぼ脇の道路で擁壁部分の舗装に穴が開いているが原因は。

答 平成4年にできた道路で30年経過している。パトロール等で陥没箇所補修等速やかに対応し安全管理に努める。

第3期旭市子ども・子育て支援事業計画に向けた取り組みについて

問 第2期計画では、子ども家庭総合支援拠点の整備を挙げているが、対象となる支援家庭をどう把握するか記載がない。子どもの貧困家庭の把握調査や調査結果に基づく貧困対策、分析結果を踏まえた素案作成、これらにより次期計画を作成してほしい。

答 第3期子ども・子育て支援事業計画は、今年度と来年度で策定することになる。今後庁内で検討して進めていく。

問 令和4年度に始まったストッブ少子化大作戦で少子化が食い止められるか。

答 移住・定住から結婚、出産、子育てを一連のものと捉え、少子化に歯止めをかける効果が期待できる市独自の取り組み。

農業の振興について

問 令和3年市町村別農業産出額が前回の全国6位から11位へと順位を下げた原因分析と、農業産出額増加に向けた今後の取り組みは。

答 市の産出額は、県の産出額を案分して作成されるため、県が4位から6位に後退したことが大きく影響していると考えている。今後は、担い手の確保対策、農業基盤の整備等引き続き農業の振興に注力していきたい。

問 インボイス制度が農業者に与える影響や開始前に取るべき対応は。

答 登録は任意なので、個々の経営により異なる。

問 持続可能な農業の実現のため、将来の農業の担い手となる旭市の子どもをはじめとした多様な担い手の確保、育成に向けた支援策は。

答 まずは農業について知ってもらうことが大切だと考え、

子どもたちの農業体験や食育活動に、継続して取り組んでいきたい。

旭の子どもの教育について

問 我が国の食料自給率を一層押し下げ、独立の基盤である農業を外国や外国企業の支配に委ねる政策を進める国に対して、地方は農業生産と消費の現場から、我が国の農業を守って行かなくてはならない。農業を守ること、それがこのまちの子どもたちを守り、この国の未来につなげていくことができる唯一の道だと信じている。旭市は国内でも屈指の農業産出額を誇るまちで、農業先進自治体としての役割を果たしていくべき、という観点から子どもたちが食や農業を学習する「食農教育」にどのように取り組んでいるか伺う。

答 旭市の特徴を生かした農業体験を学校教育に取り入れ、米づくり教室やサツマイモ、落花生、いんげん豆づくり等を子どもたちが体験している。

問 学校給食費の恒久無償化への検討状況は。

答 本年7月から来年3月まで、第1子からの無償化を実施している。6年度以降の完全無償化については、財源確保も含めてさらに検討を重ねている。



戸村ひとみ 議員

